

## 事例 2

## 英語Ⅱにおける「授業を英語で行う」工夫

### 1 課題設定の理由

新学習指導要領では、「英語の授業を実際のコミュニケーションの場とするため、英語の授業は基本的に英語で行う」と明記されている。高等学校での英語の授業では、教科書の本文の意味を理解させることが授業の主な目的になっていることが多いため、日本語での本文説明に大半の時間が割かれる場合も多い。授業がそれだけに終始しては、生徒のコミュニケーション能力を育成することはできない。日々の英語の授業において、教師と生徒が、または生徒同士が英語でのインタラクションを図る場面が少ない現状を考慮すると、英語でのインタラクションをいかに増やしていくかが重要であると考えている。本研究では、現在指導している英語Ⅱにおいて、授業を英語でのコミュニケーションの場と捉え、英語でのインタラクションを増やすにはどのような方法があるのか、生徒が英語で「相手の考えや情報を理解し、自分の意見を伝える」ことができる能力を伸長するためにはどのような方法があるのか、を研究することにした。

### 2 生徒の実態及び仮説の設定

#### (1) 事前アンケート

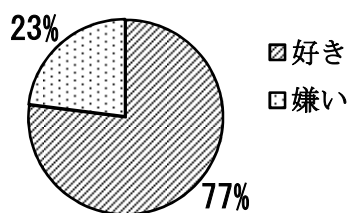
平成 22 年 5 月に英語学習に対する意識を調査するために、以下のようなアンケートを実施した。今回のアンケートの調査対象とした生徒は「人文国際コース」の 2 年生で、外国語の科目を 11 単位履修している。「英語Ⅱ」は 4 単位の履修となる。

＜実施したアンケート＞ 対象：2 年（人文国際コース） 35 名

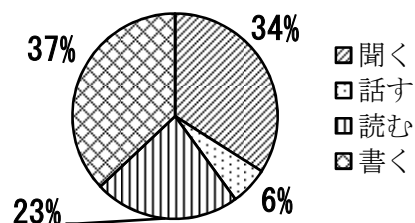
- 1 あなたは英語が好きですか。
- 2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も得意なこと何ですか。
- 3 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も苦手なこと何ですか。
- 4 英語を「聞く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
- 5 英語を「話す」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
- 6 英語を「読む」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
- 7 英語を「書く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。

＜アンケート結果＞

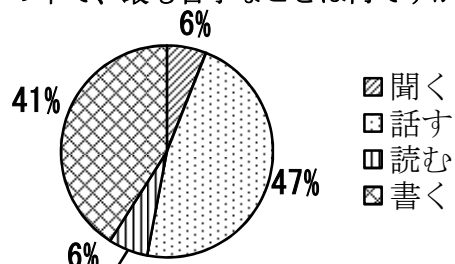
1 あなたは英語が好きですか。



2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も得意なこと何ですか。



3 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も苦手なこと何ですか。



＜以下は主なものを抜粋＞

- 4 英語を「聞く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
  - ・長い会話文の内容をきちんと聞き取れるようになりたい。
  - ・相手が言ったことがすぐに分かるようになりたい。
- 5 英語を「話す」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
  - ・自分が伝えたいことを瞬時に英語で伝えたい。
  - ・外国の人とスムーズに話せるようになりたい。
- 6 英語を「読む」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
  - ・英語を日本語にいちいち訳さないで、英語で理解したい。
  - ・知らない単語があっても、それにつかえずに読めるようになりたい。
- 7 英語を「書く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
  - ・文法をきちんと使って正しい文が書けるようになりたい。
  - ・自分が伝えたいことを文章で伝えることができるようになりたい。

アンケートの集計結果をみると、人文国際コースを選択している生徒でもあるので、約8割の生徒が英語を「好き」と回答している。「聞くこと」や「書くこと」を得意としていることが分かるが、これは、週に11時間英語に関する科目を履修し、ALTとのTTなど、授業中に英語を聞く場面が多いことが理由として考えられる。一方、「書くこと」に関して苦手意識をもっている生徒が多い。文法を正確に使えるようになりたい、自分の思っていることを書けるようになりたいと考える生徒が多いため、自分の目指す姿に近づけないことが苦手意識をもつ原因になっているのではないかと考えられる。

## (2) 事前アンケートに基づく仮説

アンケートの集計結果から、以下の仮説を立てた。

### 仮説1

英語を「聞くこと」が得意という生徒が多い。教師が授業中に様々な英語を話すことで、英語のインプット量を増やせば、生徒は相手の考えや情報が理解できるようになる。さらに、英語によるコミュニケーションへの興味・関心が高まる。

### 仮説2

生徒が得意と感じている「聞くこと」「書くこと」を中心とした英語での言語活動を日々の授業に効果的に取り入れることで、英語でのインタラクションが増え、英語で「相手の考えや情報を理解し、自分の意見を伝える」ことができる能力が伸長する。

## 3 本研究の流れ

本研究では、以下のABCの三つの活動を、3段階に分けて実施した。段階Ⅰ（6、7月）では教師からのインプット量を増やすこと、段階Ⅱ（9月）では教師と生徒の英語でのインタラクションを増やすこと、段階Ⅲ（10月）では生徒同士の英語でのインタラクションを増やすこと、を全体の目標とした。

＜活動内容＞

|     |            |
|-----|------------|
| 活動A | 内容理解に関する活動 |
| 活動B | 表現に関する活動   |
| 活動C | その他の活動     |

＜具体的な実施内容＞

| 活動<br>段階  | 活動A                            | 活動B                                | 活動C                                      |
|-----------|--------------------------------|------------------------------------|------------------------------------------|
| I (6、7月)  |                                | Rows and Columns の工夫<br><b>事例①</b> | Classroom English の工夫そ<br>の 1 <b>事例①</b> |
| II (9月)   | ワークシートを用いての<br>英問英答 <b>事例①</b> | 内容に対しての意見文を書く<br>活動 <b>事例②</b>     | Classroom English の工夫そ<br>の 2 <b>事例②</b> |
| III (10月) | 英問英答 <b>事例②</b>                | 内容に関してのディベート<br><b>事例③</b>         |                                          |

## 4 実施内容

### (1) 段階 I 「教師からの英語のインプット量を増やす工夫」

#### 段階 I の到達目標

- 活動Bに関して ・英語でのウォームアップ活動を通して、授業への興味・関心を高めることができる。
- 活動Cに関して ・教師による英語の指示に従い、適切に活動することができる。

#### (ア) 活動Bに関する事例① Rows and Columns の実施（ウォームアップの工夫）

これは中学校でも行われている簡単なゲームである。前時での学習内容を確認するための活動として授業の最初にウォームアップとして行った。最初は下記のような手順で教師の質問に生徒が英語で答えるという形式で行った。徐々に実施方法を工夫し、教師が生徒の答えに対して補足の質問をしたり、着席している生徒に関連する質問を投げかけたりと、英語でのインタラクションをとるようにし、生徒全体が英語を聞かなければならない場面をなるべく多く設定した。

質問する内容に関しては、最初は天気や日時などを質問したが、それらは生徒が興味・関心をもつ内容ではなかったため、積極的に取り組まなかった。そこで、今までに学んだ単語、教科書の既習事項に関する質問、新聞・テレビで話題になっていることなどを質問するようにした。

#### —指導手順—

- ア) 全員起立させる。
- イ) 教師が英語で何か質問をする。
- ウ) 答えが分かった生徒に手を挙げさせる。教師が指名し、答えさせる。
- エ) 正解ならば、教師が“row or column?”と尋ね、答えた生徒にどちらかを選ばせる。
- オ) 選んだ列（row なら横列、column なら縦列）の生徒を着席させる。
- カ) 一列残ったら、一人ずつ質問する。答えることができたなら着席させる。

#### —実施例—

Teacher : Let's play rows and columns. How do you say “jou-hou” in English?

Student : It is “information.”

Teacher : That's right. Row or column?

Student : Row.

Teacher : O.K. Students in this row can sit down. Let's move on to the next question.

#### (イ) 活動Cに関する事例① classroom English の工夫 その1

教師が英語を発話しない授業では、生徒が英語を話す雰囲気は作り出せないし、生徒の英語に対する興味・関心を引き出すことはできない。生徒への英語のインプットを多くするた

め、さらに、英語を話すモデルになるために、教師が積極的に英語を話すようにした。最初は、それまでの授業の指導手順は大きくは変えずに、授業中の指示を英語で行った。生徒の様子を見ながら、徐々に使用する英語を増やしたり、表現のレベルを上げたりした。また、一方的に教師が英語を話すのではなく、なるべく英語でのやりとりをするようにした。以下に示す表現は、毎回の授業で必ず使った基本的な表現である。

- How are you, today? / What's up?
- Open your textbook to page～.
- Let's review the last lesson.
- I will read it aloud, so please listen to me and follow along.
- New words. Repeat after me(,please).
- Let's check the meaning of the new words in Japanese.
- I will ask you some questions in English/Japanese, so please answer them in English / Japanese.
- How do you say “～” in English?/How do you say “～” in Japanese?
- I will give you five minutes to ～. O.K. ready, go!
- Let's check the answers.
- Please speak up.
- Please say it again.
- Now let's read together. Repeat after me.
- Now time's up. That's all for today. See you next time. Good bye.

#### (ウ)段階Ⅰの研究内容の考察

6月から7月にかけて、授業の指示はほとんど英語で行った。最初は「日本語の方がいい」などと言う生徒もいたが、基本的な表現を繰り返し使用することで、生徒も徐々に日本語なしの授業進行に慣れてきた。少しずつ使用する英単語のレベルを上げたり、単文ではなく複文や重文を用いたりして、生徒に聞かせる英語の量だけではなく質も上げていった。生徒が教師の言う英語をまねるようになり、毎回同じ英語を使用したのも、教師が言うべき指示を教師より生徒が先に英語で言う場面などもみられるようになった。

また、「Rows and Columns」を実施することで、生徒が英語に触れたり英語でやりとりをしたりする機会を増やすことができた。生徒は日本語で質問されるより、英語で質問される方が一生懸命に聞こうとする態度が見られた。また、教師からの一方的な質問で終わらないように、他の生徒に補足の質問をしたり、生徒からの質問を促したりする工夫もした。授業中の視線やうなずきなどの生徒の態度から、教師の英語が理解できる生徒が増えたようだった。英語でウォームアップをするようになったり、授業中に英語を使用しやすい雰囲気を作ることができた。到達目標ごとの考察は次の通りである。

##### 活動Bの到達目標の達成状況

- 教師からの一方的な質問でなく、他の生徒に補足の質問をしたり、生徒からの質問を促したりする工夫もしたので、生徒の発話の機会も少しずつ増やすことができた。生徒が興味をもつような質問内容を工夫することで、生徒が積極的に挙手をし、自発的に参加するようになった。

##### 活動Cの到達目標の達成状況

- 教師の英語の指示を正確に理解して活動できる生徒が多くなった。また、少し難しい表現を用いても内容を推測して指示に従える生徒も増えていった。しかし、他の先生方に授業を参観していただいたときに、指示とは異なることをしている生徒がいたと指摘を受けた。さらに生徒をよく観察し、生徒の実情にあわせた英語での指示をするようにしなければならない。

## (2) 段階Ⅱ「教師と生徒の英語でのインタラクションを増やす工夫」

### (ア) 段階Ⅰ（６、７月）の考察に基づく工夫改善

段階Ⅰでは、主に、授業中に教師が積極的に英語を使用することによって、生徒への英語のインプット量を増やすことと、生徒が授業への興味・関心をもつようなウォームアップ活動を工夫することを実施してきた。多くの生徒は、英語を聞きとることや、やりとりをすることに抵抗感はなくなってきた。しかし、段階Ⅰでは、授業の多くの時間を割く教科書の内容理解の部分に関しては、英語より日本語を使用する割合の方がずっと高かった。

そこで段階Ⅱでは、教師と生徒の英語でのインタラクションを増やしていくことに留意しながら、本文の内容理解を英語で行うにはどのような方法があるかを研究することにした。具体的には、パートごとにワークシートを作成して、英問英答を行うことを中心に研究を進めていくこととした。事前アンケートからも分かるように、「書くこと」「聞くこと」が得意であると感じている生徒も多いが、「書くこと」「話すこと」を苦手とする生徒も多い。そこで、教科書を読んで、ワークシートの英問の答えを英語で書き、それを答えるという形式から始めることとした。「話すこと」が苦手と感じる生徒に、教師の英問に、即座に口頭で英答させるのは難しいと考えたからである。新学習指導要領で、外国語科の必修修科目になる「コミュニケーション英語Ⅰ」の「２ 内容のエ」に、「聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く」という項目がある。そこで、ワークシートの最後には、本文を読んで考えたことや感じたことを「書く」作業を取り入れ、それを相手に伝える活動を行うことにした。

#### 段階Ⅱの到達目標

- |         |                                                       |
|---------|-------------------------------------------------------|
| 活動Aに関して | ・英問英答を通して、教科書の本文から必要な情報を探し、正確に英文を書き、それらを口頭で答えることができる。 |
| 活動Bに関して | ・英文を読んで自分の意見や感想を書き、それを相手に伝えることができる。                   |
| 活動Cに関して | ・英語での説明を聞いて、内容を理解することができる。                            |

使用教科書 MAINSTREAM II Lesson 4 *Visas for Life* (増進堂)

### (イ) 活動Aに関する事例① ワークシートによる英問英答を取り入れた授業 その１

これまで実施していたQ&Aや、英語による内容理解のためのT/F Questionを改善し、内容理解が深まるようにした。英問英答の答えとなる文章は、本文を読み解くためのkey sentenceとなるものにし、それをつなぎ合わせれば本文のsummaryとなるように工夫した。また、英語でのインタラクションを多く図れるよう、問い方を変えて何度も生徒に質問を投げかけたり、補足の質問をつけ加えたりした。

—基本的な指導手順—

- ア) 新出単語を確認する。
  - イ) 本文の内容を理解させるために、日本語でのQ&Aや、英語でのT/F Questionを行う。
  - ウ) ワークシート（資料１）を配布し、英語の質問に答えさせる。
  - エ) ペアで答えを確認させる。教師が質問を読み、それに続いてペアごとにOne, two…で一緒に答えを読ませる。読んだ文が同じでない質問があれば、ペアで再考させる。
- 例 Teacher : Q1. What was Sugihara Chiune's job?  
Students : (together) One, two, "He was the Japanese consul to Lithuania."
- カ) すべての質問が終わったら時間を取り、必要に応じて答えを再考させる時間をとる。
  - キ) 生徒に質問を読ませ、教師が模範解答を読む。必要があれば板書する。
  - ク) 英答を参考に、本文を読み解くためkey sentenceがどこにあるかを教科書で確認させる。

<資料1>

2. Questions & Answers

Q1. What did the people in the crowd look like?  
~~Faces~~ in the crowd were intense and tired out.

Q2. Why did the Jewish refugees need transit visas?  
~~Because they can~~ get to free countries.  
In order to

Q3. What did the refugees think would happen, if Mr. Sugihara did not help them?  
~~If he didn't help them,~~ they will be killed by the Nazis.  
They thought that they would be killed by the Nazis.

Q4. When did the Sugihara family's life changed?  
July 18, 1940

4. p47の最後に"the Sugihara family's life changed dramatically."とありますが、どう変わってしまったのだと思いますか。日本語でいいので想像して書いてみよう。  
 辞書たちを助けるために全ての手を組む、寝る時間もなくなった。

Lesson 4 Visas for Life part2 (p48)

2年( )組( )番 氏名( )

1. New Words.

2. Questions & Answers

Q1. Why did Mr. Sugihara send telegrams to the Foreign Ministry?  
~~Because~~ for permission to issue visa to the refugees.  
He sent telegrams.

Q2. How many times did he send telegrams?  
Three times.  
He sent telegrams.

Q3. What did Mr. Sugihara get from the Foreign Ministry in Tokyo?  
~~He discussed the situation with his wife and children.~~  
He got negative response.

Q4. Why was it difficult for Sugihara to decide to issue the visas?  
~~Because he was bound by the traditional Japanese obedience.~~  
he had been taught all his life.

Q5. What did Sugihara think would happen to him if he issued the visas?  
~~If he refused the orders of his superiors, he would be tired and his family would suffer great financial difficulty.~~  
He thought he would be tired.

Q6. What did Sugihara do at last?  
He decided to issue the visas.  
At last

4. p48の英文を読んで、杉原さんの決断に対してどう思いますか。また、この後、杉原さん(一家)はどうなってしまうと思いますか。日本語でいいので想像して書いてみよう。  
 困っている人を、自分や家族と犠牲にしてみても助けようとする等は素晴らしいと思うが、家族は苦しくなると思う。

(ウ)活動Bに関する事例② 内容についての意見文を書く活動

本文の内容を理解して終わりではなく、自分が感じたことや考えたことを文章で表現させる活動を行った。最初に英語で意見文を書かせてみたが、非常に時間がかかった。また、生徒は、語彙力や表現力の問題もあり、思うように英文を書けず、生徒の「書く」意欲はあまり高まらなかった。また、日本語の単語を一語ずつ辞書で英訳し、それらを並べて英文を作る生徒も多く、完成した英文は、英語としては意味が通じないものも見られた。

最終的な目標は、自分の意見を英語で伝えられるようになることである。しかし、実情を考えると、まずは本文の内容について「考える」ことが重要であると考え、なぜ登場人物はそうしたのか、自分だったらどうするかなど、さまざまな視点から考えさせた。そして、考えたことを文章で表現することへの意欲を高めるため、日本語を用いてもよいこととした。また、文章だけで自分の思いを相手に伝えるのは難しいと感じる生徒もいるため、伝えるための補助手段として絵を描かせた。英文を読んで印象に残った場面を描かせたり、本文の流れを絵で表させたりした。(資料2)

最後に、4人グループになり、絵を用いながら自分の意見を他の生徒に伝える活動を行った。留意したことは、情報の一方的な伝達にならないように、話し手は聞き手が理解できるように考えて伝えさせることと、聞き手は話し手の意見に対して必ずコメントをさせることである。

<資料2> \*原文のまま

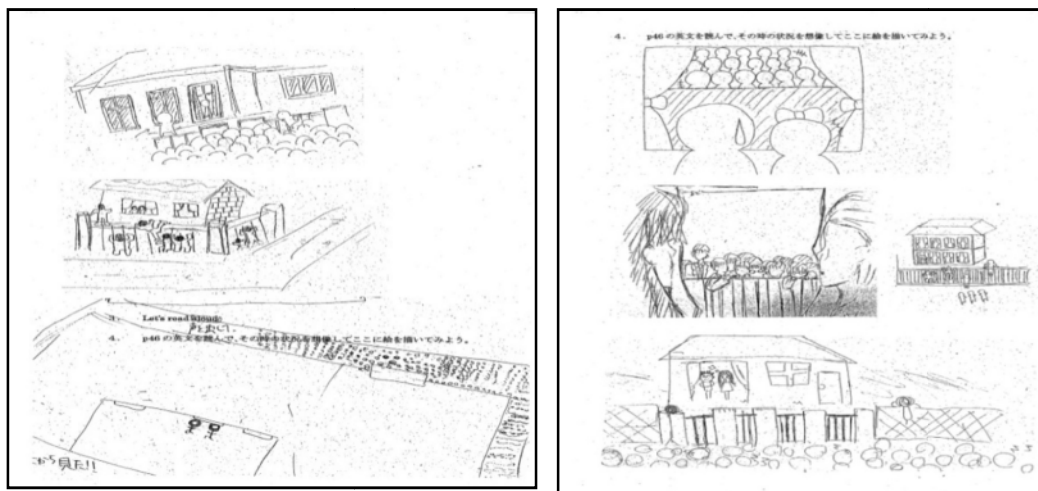
生徒が書いた意見の例(日本語のみ)

私は杉原さんにはなれないと思う。人の役に立つことをしたいと思うけど、それをする勇気がない。それから、いざというときは、自分や家族を犠牲にしてみよう。他人のために何かをするなんてできないと思う。自分や家族のことを一番に考えてしまおうと思う。この間、テレビで患者さんのために家族との時間を削って仕事をしている医者のお話を観た。その時も自分にはできないと思った。たぶん人の命を危険に押しつけてきたら、逃げちゃうかもしれない。どうしたら、こんなに他人のことを一生懸命考えられる人になれるのかな。その答えは、自分で頑張るしかないのかな。

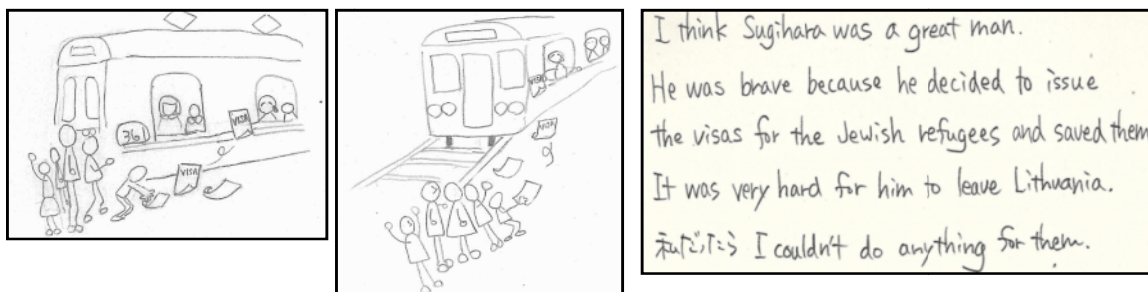
生徒が書いた意見の例(英語と日本語)

I think Sugihara is great. But, if he is my father, I feel lonely.  
 I think ... 人にほめてもらったり認めてもらったりしていいことをするのはなく、自分が人のためになりたいから何かをするというの大切さを感じた。先生が「自分の心に正直に生きる」とはこういうことか。って聞いたけど、できそうでできない難しいことだと思ふ。It's too difficult.

## 生徒が描いた絵 (パート1)



## 生徒が描いた絵と意見文 (パート4)



## (エ) 活動Cに関する事例② classroom English の工夫 その2

6月から、授業の指示はほとんど英語で行ってきたので、生徒は英語での指示に慣れ、理解できるようになった。そこで、使用する語彙を難しくしたり、表現を変えたりするようにして、さらなるインプットにつなげた。例えば、understand を recognize、make out などに、think を suppose などに言い換えた。言い換えた時は、その単語を何度か言い返したり、ゆっくり言ったりして、生徒の理解を促すようにした。

また、教師の small talk も行うようにした。ただ聞くだけでは飽きてしまうので、途中、何度も生徒に質問を投げかけるようにした。内容は生徒が興味をもつようなことや、社会的に話題になっていることなど、バリエーションを増やすよう心がけた。何回か実施し、生徒が small talk に慣れてきてからは、生徒同士での small talk を行った。文法的な間違いは気にせず、とにかく自分の考えや最近の出来事などを 30 秒で話すように指導した。聞き手は、必ず話の内容に関する質問をするというルールを設定したので、話し手の伝えようとすることを理解しようとする姿勢が見られた。

## (オ) 段階Ⅱの研究内容の考察

英語で本文の内容を理解させるには以下のような方法が考えられる。

- (例)・教師が本文の内容をやさしい単語で言い換え、それを口頭で説明したり、絵などを用いて視覚的に理解させたりする。
- ・内容を理解できるような T/F Question を作成する。
- ・内容に関する英問英答をする。

事前アンケートで「書くこと」を得意とする生徒も多かったが苦手とする生徒も多かったこと、教師と生徒のインタラクションを増やしたかったこと、の二つの理由から、今回の研究では英問英答による内容理解の活動を行った。

1 学期の期末テスト後から 9 月までの間、ワークシートを用いて英問英答を行った。ワー

クシートを有効に活用するために、授業の指導手順を改善したことで、英語を苦手とする生徒も、徐々にではあるが、自発的にワークシートに取り組むようになってきた。個々の作業の後、ペアでの答え合わせをするようにしたことや、ワークシートにある質問に答えていけば本文の重要な箇所が理解できるようにしたことなどが効果的であった。最後には「書くこと」と「話すこと」の統合的な指導を目指し、ペアで口頭での英問英答を行った。

最終的には、自分の意見を英語で伝えられるようになることが目標ではあるが、その目標に到達するまでの過程を次のような三つのステップで考えた。

STEP 1 英文を読み、その内容や背景、登場人物の心情について考える。

STEP 2 考えたことを文章で表現する。

STEP 3 相手が理解しやすいように自分の意見を伝える。

STEP 1 では、「考える」ことが重要であると考え、自分の意見を書く際に、日本語を用いてもよいとした。そうすることで、生徒は自分の意見を書くようになり、無回答の生徒はほとんどいなくなった。ただ、最初はすべて日本語で意見を書く生徒が半数以上であったので、短くてもいいので1文ずつでも英文を増やしていくように指導した。その結果、ほとんどの生徒が英語を交えた意見文を書くようになった。各活動の到達目標の考察は次の通りである。

#### 活動Aの到達目標の達成状況

- ・ワークシートを用いての英問英答を行ったが、ある程度内容理解をしたあとに実施した活動だったので、生徒は意欲的に取り組んでいた。書いたものをもとに口頭での英問英答の練習をしたが、ただ自分のワークシートを読むだけになっている生徒も多かった。

#### 活動Bの到達目標の達成状況

- ・日本語で書いてもよいということにしたので、生徒はいろいろと考え、自分の考えや思いをよく書いていた。様々な意見が書いてあり、生徒理解にも大いに役に立った。徐々に英語が増えてきてはいるものの、すべて英語でというところまでは指導できなかった。また、相手に伝えようという気持ちはあるものの、伝え方が身に付いていないので、「話して伝える」のではなく、「文を読んでいる」という状況になってしまった。

#### 活動Cの到達目標

- ・使用する語彙のレベルを少しずつ上げながら、英語で授業を進めることができた。ただし、日本語の方が効果があると判断した時は、日本語で説明した。毎回同じ表現での指示ではなくなったので、生徒は教師の指示を注意して聞きいていた。small talk など取り入れ、英語でのやりとりが自然に行われる環境ができた。

### (3) 段階Ⅲ「生徒同士の英語でのインタラクションを増やす工夫」

#### (ア) 段階Ⅱ（9月）の考察に基づく工夫改善

段階Ⅱでは、教師と生徒の英語でのインタラクションを増やしていくことに留意しながら活動を実施した。生徒は少しずつではあるが英語で表現することができるようになってきた。また、英語で表現することに関心を示す生徒も増え、意欲的に取り組むようになった。しかし、英答するといっても、教科書の本文中にヒントがあり、生徒が答えを導きやすいように教師が意図的に作成した英問であった。また、ペアで口頭練習させたが、書いたものを読むだけになってしまい、コミュニケーション活動として十分とは言えなかった。

意見文を何度も書いたことで、自分の考えなどを書くことへの抵抗が減ってきた生徒も多くなり、書いたものを相手に伝えてみたい、理解してもらいたいという様子がうかがえるようになってきた。

これらを踏まえ、段階Ⅲでは、次の二つの活動を行うことにした。段階Ⅱではワークシートを用いて解答を書かせ、それを読むという形式の英問英答を行ってきたが、段階Ⅲでは、

ワークシートは用いるが、まず口頭で答えさせ、それを書かせるという形式に改善することにした。また、表現に関する活動として、簡単なディベートを行うことにした。自分の意見をまとめ、相手に伝わるように表現を工夫したり、相手の意見を聞きとってそれに対する自分の意見をまとめたりすることができるようになるためである。生徒同士のインタラクションが活発に図られるように指導を工夫した。

#### 段階Ⅲの到達目標

- 活動Bに関して ・英語での質問を聞いて、教科書の本文から必要な情報を探し、口頭で答えることができる。
- 活動Cに関して ・英語での簡単なディベートを通して、自分の意見を筋道を立てて表現したり、相手の意見を聞いて、それに賛成したり反対したりすることができる。

使用教科書 MAINSTREAM II Lesson 5 *Soul Surfer* (増進堂)

#### (イ)活動Aに関する事② ワークシートによる英問英答を取り入れた授業 その2

段階Ⅱで授業に英問英答を取り入れたが、ワークシートに書かれている英問の答えを教科書の本文から探し出して書くという活動であった。生徒はこの形式での内容理解に慣れてきたため、段階Ⅲでは、口頭での英問英答を到達目標とした。ただし、この活動は生徒にとっては難易度が高いため、質問内容は徐々にレベルを上げるよう三つのステップにした。

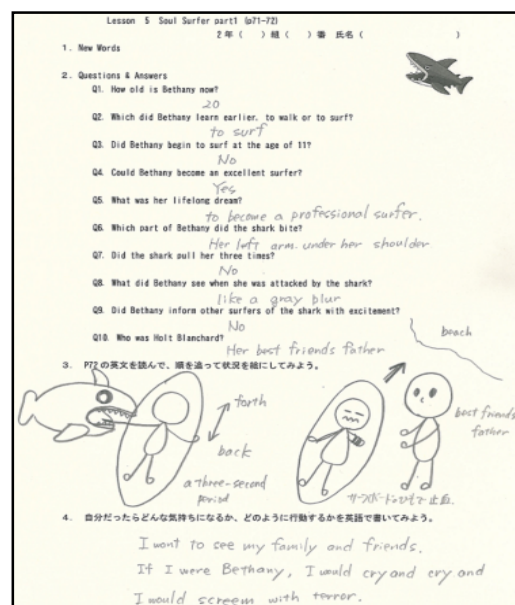
<資料3>

##### —指導手順—

- ア) 新出単語を確認する。
- イ) 本文の内容を理解させるために、日本語での Q & A や、英語での T/F Question を行う。
- ウ) 教師が英語で質問を投げかけた後、ペアで答えを考えさせる時間をとる。
- エ) いくつかのペアを指名し、解答させ、答えを確認する。
- オ) すべての質問が終わったらワークシート（資料3）を配付し、正解を書かせる。
- カ) 英答を参考に、本文を読み解くため Key Sentence を教科書で確認させる。

##### —質問内容—

- STEP 1 Yes / No で答える質問、または、単語や句だけで答えられる質問にする。
- STEP 2 Yes / No で答える質問の数を減らし、短い文章で答える質問を入れる。
- STEP 3 Yes / No で答える質問をさらに減らし、完全な文章で答える質問を入れる。



#### (ウ)活動Bに関する事例③ 簡単なディベート

新学習指導要領では、「コミュニケーション英語Ⅱ」という科目がある。その「2 内容ウ」では、「聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。」とある。また、指導する際の配慮事項に「エ 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりすること」とある。この研究を開始してから、これまでいくつかの方法で自分の意見を相手に伝える活動をしてきた。生徒の中に、自分が話すことを相手に理解してもらいたいという姿勢が見られるようになり、お互いに試行錯誤しながらも何とか伝えよう、何とか理解しようとする様子も見られるようになってきた。そこで、生徒に達成感や有能感をもたせられるような指導法を工夫

し、1時間で完結するようなミニディベートを取り入れた。以下に示すのは、授業で初めてディベートを実施したときの1時間の授業の流れである。

—実施した授業の流れ—

1 Warm up(5分) 前述の Rows and Columns を実施する。

2 Mini Debate(45分)

(I) ディベートの導入

<実際の授業でのやりとり>

T: Today, we are going to hold a mini-debate. Do you know about Debate?

(何となく分かるという生徒が多かったため、ここでディベートについて日本語で簡単に説明をする。) I will give you a topic. Today's topic is "Tochigi is a good place to live in."

Now, I would like you to do janken with the person next to you. The winner is the Yes-side and the loser is the No-side. (じゃんけんをさせる。) OK, it's time to debate!

But, in order to hold an active debate, I will give you four minutes to prepare. (4分間、生徒に自分の意見を考えさせる。) Try to hold a debate about the topic with your partner in English. Use as much English as possible. Don't mind making any mistakes. Let's begin the debate with your partner. I will give you four minutes.

Ready, go!

S: (ペアで自分の意見を述べ合う。)

T: Stop talking. Now, please give your opinions to the class. I want you to use as much English as possible, but you can use Japanese if necessary. How about the Yes-side?

S: (肯定側の生徒が3人答える。)

T: (教師は板書する。) How about the No-side?

S: (否定側の生徒が3人答える。)

板書内容 \*できるだけ生徒の発話通りに板書した。

| "Tochigi is a good place to live in."        |                            |
|----------------------------------------------|----------------------------|
| ○the Yes-side                                | ○the No-side               |
| • a lot of nature                            | • countryside              |
| • The production of strawberries is No.1.    | • little trains and buses  |
| • a lot of delicious food, for example water | • Stores are closed early. |

T: Thank you. You did a good job, but this is not a real debate. Do you know why?

S: 「肯定側と否定側がただ意見を言ってるだけ。」

T: That's right. All you did was to give your own opinions and to listen to them. In a debate, 「お互いに相手の意見に対して反論を述べ、自分の主張の方が正しいことを論証していきます。例えば、Yes 側の人の、『栃木は自然が豊かだ。』という意見に対しては No 側はどんな反論ができますか？」

S: 「生活するのに不便なときがある。交通の便が悪いとか。あつ、little trains and buses !」

T: That's right. You noticed very important point.

(II) ミニディベートの実践

(I) のようなやりとりを通して、ディベートとは意見を述べ合うだけではなく、自分の主張が正しいことを論証していくものであるということを生徒たちに理解させた。その後、別のトピックでもう一度ディベートを実践した。

—指導手順—

- ア) ワークシート（資料4）をもとに、ディベートについて詳しく説明する。トピックは本文の内容と関連させ、「In order to make dreams come true, we should challenge everything even though it is sometimes risky.」にした。
- イ) 肯定側と否定側を決め、それぞれの意見を5分でワークシートに書かせる。できるだけ英語で書くように指導する。
- ウ) 2つのペアで、4人グループを作らせる。ペアごとにディベートをし、発表していないペアにジャッジさせる。
- エ) 肯定側の生徒に1分で自分の意見を述べさせる。否定側とジャッジの生徒にそれを書きとらせる。
- オ) 否定側の生徒に1分で自分の意見を述べさせ、肯定側とジャッジの生徒にそれを書きとらせる。
- カ) ディベートをしているペアに、5分で相手の意見に対する反論を英語で書かせる。ジャッジの生徒にはどちらの主張の方が説得力があったかなどを話し合わせる。
- キ) 肯定側の生徒から反論を1分で述べさせる。否定側とジャッジの生徒にそれを書きとらせる。
- ク) 否定側の生徒に1分で反論を述べさせ、肯定側とジャッジの生徒にそれを書きとらせる。
- ケ) ジャッジの生徒に、どちらの主張の方が説得力があったかを判定させる。

(Ⅲ) 振り返り

ワークシートを用いて振り返りをする。感想や気付いたことなどを書かせる。

<資料4> 生徒のワークシート

Mini Debate をしてみよう

平成22年11月2日（月）3限目

2年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

1. "Tochigi is a good place to live in" について話してみよう。  
(メモ)  
Yes.  
Because there is wonderful nature and a historic building in Tochigi.
2. "Debate" とは (英辞)  
相手の意見に (反論) を加えて、自分の意見が正しいことを立証すること。
3. 簡単にディベートしてみよう (英辞)
4. 気づき、考え、深めたことや、授業の感想などをかいてみよう。  
他の人たちの意見を聞いて自分の意見も変わりました。  
それを英語で言う練習はめいめいしていいことだと思った。

Mini Debate をしてみよう (英辞)

平成22年11月2日（月）3限目

2年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

In order to make dreams come true, we should challenge everything even though it is sometimes risky.

・論題 「We should challenge everything even though it is sometimes risky.」

| ① 肯定側の立論                                                                                                                                                                                                  | ② ①に対する否定側の反論                                                                                 | ③ 否定側の立論                                                                                                                        | ④ ③に対する肯定側の反論                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| I think it is important to have dreams.<br>And it is more important to make efforts to make dreams come true. If we do nothing nothing happen. So if we know it is risky, we should challenge everything. | But, we should do safe thing.<br>Small thing, small thing, small thing...<br>dream come true. | challenge something safe dangerous risky<br>dreams never come true death family feel sad<br>If we know it's risky, we never do. | In our daily life, there are many dangerous things. If we avoid them, we can't true. "Spare the rod and Spoil the child." We should have courage to challenge everything in order to make dream come true. |

判定 ( 肯定側 ) ( 否定側 ) の勝ち

どうして肯定側・否定側の勝ちなのかのコメント  
「さほど思う反論はなかった。だから、挑戦した。7-11-1を見る意義が」  
「挑戦した」

(エ) 段階Ⅲの研究内容の考察

生徒同士のインタラクションを増やすための活動として、段階Ⅱで実施していた英問英答のレベルを上げ、「書く」作業を入れずに、「聞いて答える」という活動を行った。Yes / Noで答えられる簡単な質問や、単語や句で答えられる質問には正確に答えられていた。自発的に質問を聞き取ろうとする態度が見られ、「Once more, please」などと、相手に質問を繰り返してもらっている生徒もいた。しかし、文章で答える必要がある難しい質問になると、文法や語彙を気にしながら頭の中で英文を作って答えるという状況になってしまった。答えにつまったり、「パス」といって答えなかったりして、活動に対する意欲を失う生徒も見られた。そこで、できるだけ生徒が答えやすい質問を作成するよう留意し、やりとりの場を増やす

ように工夫した。

これまでの表現活動を通して自分の意見をもつこと、それを伝えることの重要性を生徒は感じていたので、英語で表現することに挑戦させたいと考え、簡単なディベートを授業で実践した。ディベートでは、相手の主張が予想できないので、相手の伝えたいことをしっかり聞きとって理解する必要がある。また、相手に理解してもらえるように、自分も要点を的確に整理して伝えなければならない。ミニディベートとして、1時間で終了するディベートにしたが、生徒はこの活動に意欲的に取り組んでいた。授業中の様子や、ワークシートの内容から判断すると、「自分の意見はきちんともってはいらるが、それを英語でどう表現するか」が一番の課題だった。実施後、生徒に感想を聞いたところ、「難しいけど、楽しかった」「相手に伝わったとき嬉しいし、相手の言っていることが理解できると嬉しい」「ちょっとだけ外国の人になった気分だった」など、前向きな意見が多かった。到達目標ごとの考察は次の通りである。

#### 活動Aの到達目標の達成状況

- ・ Yes / No で答えられるものや、単語で答えられる質問には、意欲的に答えようとする様子が見え、正しく答えられている生徒が多かった。しかし、文章で答える質問は、生徒にとっては口頭で答えるのは難しいようであった。英問に対し、答えを書かずに即興で口頭で答えるものと、答えを書いてから答えるものと、教師が振り分けをして、生徒の意欲を持続させる必要性を感じた。

#### 活動Bの到達目標の達成状況

- ・ 積極的に取り組んでいた。伝えたいことがあってもなかなか伝えられず、はがゆい思いをしている生徒も多く見られたが、別の表現を探したり、絵を描いたりして、自分の意見を英語でどう表現するかという課題に取り組んでいる姿勢が見られた。

## 5 検証とまとめ

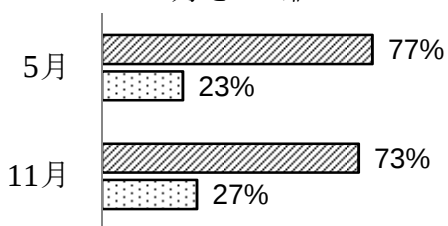
### (1) 事後アンケートによる検証

これまでの活動を振り返るために、事前アンケートと同じ内容のアンケートを同じ生徒を対象に行った。

＜実施したアンケート＞ 対象：2年人文国際コース 35名

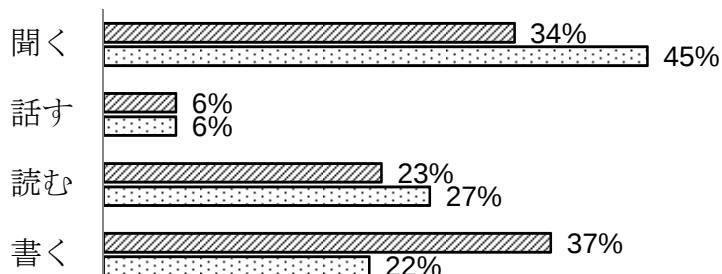
#### 1 あなたは英語が好きですか。

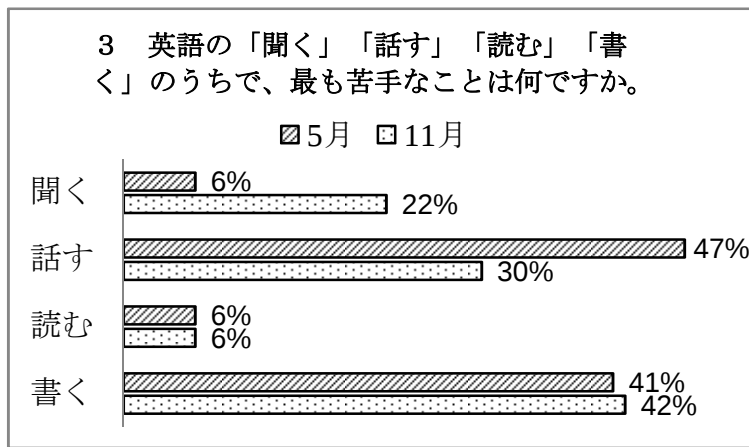
■好き □嫌い



#### 2 英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」のうちで、最も得意なことは何ですか。

■5月 □11月





<以下は主なものを抜粋>

- 4 英語を「聞く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
  - ・相手が言ったことを正確に聞き取れるようになりたい。
  - ・相手が言っていることを理解してあげられるようになりたい。
- 5 英語を「話す」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
  - ・自分が伝えたいことをきちんと伝えたい。
  - ・ディベートは難しいけど楽しいから、もっとすらすらできるようになりたい。
  - ・英問英答で書かなくても答えられるようになりたい。
- 6 英語を「読む」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
  - ・教科書の本文を日本語に訳さないで、質問に答えながら英語で理解したい。
  - ・話せるようになりたいから、まずは上手に読めるようになりたい。
- 7 英語を「書く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
  - ・自分の言いたいことをもっと長い文章で書けるようになりたい。
  - ・自分が伝えたいことが英語だと伝えられないので、英文できちんと伝えることができるようになりたい。

アンケートの集計結果から、「話すこと」を苦手と感じる生徒が減っていることが分かる。これは、これまでの活動を通して、英語で表現することへの抵抗感が減ってきているからだと考えられる。また、「聞くこと」を得意と感じる生徒が増えていることが分かるが、反面、「聞くこと」を苦手と感じる生徒が増加した。これは相手の伝えたいことを正確に理解する場面を授業中に設定したため、これまで理解していたつもりであったことが、実は正確に理解できていなかったと自覚したためであると思われる。また、「書くこと」を得意とする生徒が減っているが、その理由としては「自分の伝えたいことがなかなか書けないから」という前向きなものが多かった。また、問5の「話すこと」に関する自由記述では、ほとんどの生徒が「自分のことを伝えられるようになりたい」と書いていた。

## (2) まとめ

研究の当初に設定した仮説1、2は、概ね実証できたと考える。

仮説1に関しては、教師が発話する英語の量を少しずつ増やしたことで、生徒への英語のインプット量を増やし、生徒に英語でのインプットに慣れさせるところから始めた。最初は教師からの一方的な情報伝達になってしまう場面もあったが、「聞いてばかりではなく自分も話したい」という意欲が徐々に生徒の中に見えるようになってきた。十分なインプットをすることは、アウトプットへの必要不可欠な要素であり、アウトプットすることは、コミュニケーションへの第一歩である。

仮説2に関して最も留意したことは、散発的に特別なことを行うのではなく、日々の授業に効果的な言語活動を取り入れることである。毎時実施したことは、教師が積極的に授業中に英語を使用することによって、英語を話す雰囲気を作り出したことである。また、ワークシートを用いての英問英答を導入し、じっくり教科書を読みながら答えになるキーセンテンスを探し出させて、英文を書かせた。この活動は、自分の意見を英語で表現するための基礎力を養うことにつながった。日本語を用いることもあったが、各パートで自分の意見を書かせることによって、自分の考えを整理し、的確にまとめることができるようになってきた。さらに、書いた文章をもとに、様々な方法でインタラクションを図る活動を取り入れた。ワークシートや活動の様子から判断すると、生徒の「相手の考えや情報を理解し、自分の意見を伝える」能力は伸長してきていると感じる。

英語で自分の考えを即座に述べるというのはとても難しいことである。この研究では、自分の伝えたいことを十分に英語で表現できるまでには至らなかった。しかし、読んだことや学んだことについて生徒が自分の意見をもったり、友人の意見を尊重したりする態度を養うことはできたと考えている。何回もワークシートに生徒の感想や意見を書かせてきたが、それらを追ってみると、そのような態度が育ちつつあることを確信することができる。このことが、本研究の最大の成果だったのではないかと考えている。

今回の研究では、「英語でやりとりをする」と、内容が稚拙になってしまったり、正確な英語ではなかったりするという問題点を解決することはできなかった。意見や思いを伝えられる英語力、相手のことを聞き取れる英語力を身に付けさせることが教師としての課題であると感じている。今後は、「正確に」英語を理解し、「適切に」表現させることを目指し、さらに研究を進めていきたい。